

令和 8 年度 議会地域懇談会（白川地区）

令和 8 年 6 月 3 日（水） 町民会館

参加人数 38 名

テーマ「防災（治山・治水等）」 「少子高齢化」

テーブルごとの意見まとめ

■ 1 番テーブル（伊佐治副議長）

岩屋ダムの耐震性や崩壊時の被害想定、飛騨川沿いの浸水への不安など、防災面での危機感が示されました。また、町道への枝の張り出しなど道路管理の課題や、消火栓の位置・使い方を女性にも周知する必要性が挙げられました。少子高齢化については、人口減少や、子ども世代が地元を離れたまま戻らないことにより、家屋・土地・墓の管理が課題となっているとの意見がありました。白川橋の改名（美濃白川レインボーブリッジ）、河股神社を天満宮として PR など、イメージの刷新を図りつつ、既存の地域資源を活用した観光・交流の提案も出されました。

■ 2 番テーブル（野尻議員）

中野地区や広野地区で実施されている消火栓・消火器を使った防災訓練の取組が紹介されました。一方で、がけ崩れ、道路への雑草や樹木の張り出し、防犯灯・街路灯の不足、車の速度超過など、暮らしの安全に関わる課題が挙げられました。少子高齢化では、農業組合の高齢化や茶畑の維持が課題とされ、機械化やグループ化による負担軽減が必要との意見がありました。また、高校進学支援、小規模校の特色ある教育、移住促進、高齢者が安心して暮らせる町づくりなどが提案されました。

■ 3 番テーブル（杉山議員）

防災について、行政ができることには限界があり、自治会など地域でできることは地域で取り組む必要があるとの意見が出されました。一方で、治山・治水など行政に頼らざるを得ない分野も多く、災害時の計画が実際に機能するのか、要支援者情報が共有されているのかといった不安も示されました。少子高齢化については、地域の役が多く、引き受け手が不足していることから、必要性の低い役の廃止、自治会の合併、女性の役職参加などが提案されました。地域行事やコミュニティーの維持の難しさも共有されました。

■ 4 番テーブル（三戸議員）

災害への危機感が薄れていることから、定期的な防災訓練が必要との意見が出されました。小原地区の堤防工事の進捗に関する懸念や、災害時における本郷地区の孤立化への不安、避難場所まで行くこと自体が危険な地区の実情などが挙げられ、地域ごとだけでなく各戸の状況に応じた避難計画やハザードマップが必要とされました。少子高齢化については、地域の絆が弱まっていることへの危機感が示され、移住者の受入れや交流人口の増加、自治会・自治協議会の統合、役の見直しが提案されました。女性登用、移動投票所、公共交通の運転手高齢化への対策を求める声もありました。

■ 5 番テーブル（佐伯議員）

白川口地区で行われている「防災運動会」が紹介され、子どもから高齢者までが参加し、楽しみながら防災を学ぶ取組として評価されました。日頃から住民同士が声を掛け合える関係づくりや、避難所へ行くことが難しい場合に備えた近隣の安全な家の確認も重要とされました。一方で、地区による防災活動の温度差、役場周辺の浸水リスク、主要道路の寸断による孤立、橋や水道管などインフラの老朽化への不安も挙げられました。お茶の機械化・グループ化、空き家を活用した移住促進、キャンプ場を生かした交流拠点づくりなどの提案もありました。

■ 6 番テーブル（梅田議員）

若い世代の減少や空き家の増加により、地域の活力が低下しているとの意見が出されました。学校統合だけでは地域活性化につながらず、空き家を移住体験住宅や交流拠点として活用するなど、地域の魅力づくりや発想の転換が必要とされました。防災面では、避難所の鍵を誰が開けるのか、災害時に誰が動くのかなど、体制が不明確であることが課題として挙げられました。川の水位や上流の状況を把握する仕組み、高齢者の避難支援、グループLINEなどを活用した見守り、役場と地域の役割分担の明確化が求められました。

■ 7 番テーブル（藤井議員）

少子高齢化について、働き口の少なさが若者の流出につながっているとの意見が出されました。今後は、地域を守る組織づくりや、中心となる若い人材を地域で育てることが必要とされました。農業については、生活基盤を守るため、グループ化や統合を進め、効率的な機械化を推進する必要があるとの声がありました。防災面では、100年先を想定した対策の必要性や、急傾斜地の砂防工事の採択条件緩和、落石箇所の調査、下呂白川線の強靱化を求める意見がありました。避難テントやベッド、トイレ、防災用品を実際に使う訓練も提案されました。

■ 8 番テーブル（田口議長）

防災について、白川地区で実施されている防災運動会の取組が紹介されました。山林の手入れや間伐が行き届いていないことから、間伐を進めて山の保水力を高め、河川の氾濫を防ぐことができないかとの提案がありました。また、災害時にどこへ集まり、どこへ避難すればよいのか、避難指示が出た際にどう行動すればよいのかを具体的に決めてほしいとの意見が出されました。少子高齢化については、子育て環境の変化や東京一極集中への問題意識が示され、住民が幸せを感じ、ゆとりを持って田舎暮らしを楽しめる地域づくりが大切とされました。高くても購入される果物や、健康に関わる農産物の生産など、農業の新たな可能性も話し合われました。

白川地区のまとめ・特性

白川地区では、防災と少子高齢化を中心に、地域の将来に関わる幅広い意見が交わされました。防災面では、岩屋ダムの耐震性や河川の増水、土砂災害、道路寸断による孤立、避難場所や避難所運営の不明確さなど、実際の災害を想定した不安が多く挙げられました。消火栓や防災用品を使った実践的な訓練、要支援者の避難支援、住民同士の見守りなど、地域で備える仕組みづくりの必要性が共有されました。

少子高齢化については、自治会や自治協議会の役の担い手不足、農業・茶産業の後継者不足、空き家の増加、若者の流出などが課題として挙げられました。役の見直しや地域組織の統合、農業の機械化・グループ化、空き家を活用した移住促進など、人口が減少する中でも地域を維持していくための具体的な提案が出されました。また、白川橋、河股神社などの地域資源を生かし、観光や交流につなげていく視点も示されました。